

AD ALTIORA SEMPER

神戸市外国語大学学術情報センターだより 第37号

図書館とナショナリズム

ネルー記念博物館 / 図書館 (インド)

国際関係学科准教授 大石 高志

昨年度、在外研究制度を利用して、イギリスとインドとに併せて1年間滞在する機会を得た。久しぶりに享受させていただいた貴重な長期海外研究の一端については、すでに、『神戸外大だより』の「在外研究報告」欄に「シェフィールドとバラナシを結ぶ」と題して記させていただいている。ここでは、インドの首府デリーに所在するネルー記念博物館 / 図書館とその施設が所在するティーン・ムールティと呼ばれる施設・場所について、図書館が付帯するインド近現代史上の歴史性ととも、紹介申し上げたい。

国立国会図書館関西館のアジア情報室で、その開設初期(2004年以降)に南アジア関係の蔵書構築をお手伝い申し上げていたことが縁で、3年ほど前に、「アジア情報研修」と呼ばれる図書館関係の方々向けのセミナーの講師を務め、「図書館から見たインド近現代史」と題した小講演を行ったことがある。その折に、国立図書館(National Library: 在カルカッタ)も含めて、インドのほとんどの図書館で、紛失や虫食いなど、蔵書管理に深刻な困難があり、学術情報の総合的なネットワーク化など、日本の図書館が昨今力点を置いているような取り組み以前の問題が大きいというようなことを、話の枕として申し上げ、同時に、そうした関係で必然的に生じる個人研究者の側での苦勞に言及させていただいた。結果的には、日本の国立機関に於いて、先方の国立図書館も含めて、インド側に不平・不満を呈することになったので、正面から過ぎる物言いであったかとも思うが、そのセミナーでの私の愚説の全体的な趣旨は、そうした現代インドの図書館事情の背後にある歴史的な植民地支配とその現代的な遺産という問題であった。

何かというと、イギリス植民地支配は、植民地支配の政治的「協力者」や実務行政官を養成する必要から高等教育を重視し、ごく少数のインド人エリートを養成したが、逆に、初等・中等教育の普及・拡散には、間違いなく消極的だった。そして、独立後のインド(1947年-)も、長らく、そうしたレガシーの中に身を置いてきた。図書館というものは、不可避免的に、そうした社会的特性や社会問題を照らし出す。まず、インドでは、一般的な書籍の利用や流通を支えるべき中間層的な市民の存在が相対的に脆弱であり続け、日本で地方自治体が管理運営しているような身近な公共図書館は、少数しか存在せず、大きく言えば、実質的に機能して来なかった。しかし、それに比して、社会の上層エリートの利用と便宜に供すべく設置されたごく一部の大学や高等研究機関の図書館は、政府からの財政的支援を得て、学術研究書を中心にした蔵書構築を許されてきた。これは、新生のインド国



ティーン・ムールティの入り口
旧ネルー公邸に博物館 / 図書館を設置

家が、アジア・アフリカの盟主的存在として、科学技術の振興や行政トップエリートの自前輩出を至上命題とし、結果的に、植民地期からの継続で、高等教育に傾斜した結果である。だが、ここで生じた次の問題は、そうした図書館において、希少な学習・研究資源としての蔵書の熾烈な争奪が学生間に生じて、館内外での重要書籍の「囲い込み」や、過剰なコピーに晒された書籍の破損、果ては書籍の紛失まで、見られるようになったことである。

私は、1992年から3年間にわたって、独立インドの初代首相ネルーの名を冠する大学に大学院の学生として在籍していたが、図書館において、まさにそうした問題に悩まされ続けた。ここで救いとなったのが、本小文冒頭に言及したネルー記念図書館である。首府デリーの南西に所在する大学からは、毎朝、大学運営の特別バスが市中心部に向けて運行されており、その図書館が運行ルートに組み込まれていたこともあり、頻繁に足を運んだ。また、この図書館は、実は、ネルーの公邸として利用されていた敷地ティーン・ムールティ（名称は、1920年代のイギリスによる建設時に「3体の像」の記念碑を敷地内に建てたことに因む）のなかに、旧執務室など含む壮麗な建物と並んで併設されている。後者は、独立前後期の現代史を振り返る博物館として、日々、多くの団体見学者が訪れており、「インド国民」の創生装置としての機能も背負っている。それ故に、この場所全体が、インド近現代史を学ぶ筆者のような研究者には、ある種の心理的高揚を誘うような副次作用も備えていた。そして、肝心の図書館では、ガンディーとともにイ

ンド・ナショナリズムを牽引したネルーに敬意を払う様に、植民地支配や民族運動に関する書籍が網羅的に配置され、しかも、それらが、厳しい管理体制のなかで紛失などを最小限に防ぎつつ維持されていた。おのずと、デリー内外からインド近現代史研究に従事する研究者や大学院生が多数集うようになり、席を確保することが困難な状況も生じるほどであった。また、付属の食堂では、簡素ではあったが廉価で昼食やお茶が提供されており、緑豊かなオープンテラスで、研究者仲間が談笑や議論を繰り返すというようなサロニックな雰囲気も醸し出されていた。

しかし他方、ネルー記念図書館は、まさにそのナショナリズムとの接合という関係性もしくは存在理由ゆえに、政治的な「喧噪」のなかに放り込まれる運命も背負ってきたと言えよう。名誉ある館長職の人選や購入・配置書籍の選定や概念づけ、半ば定期化されていた学術セミナーのトピックや演者の選出などが、特に、1990年代に入って以降、従来の公式的なインド・ナショナリズムの揺らぎとともに、あらためて、問題となった。より本質的な問題は、民族運動と独立後の議会政治の中枢を担い続けたインド国民会議派の政治的な凋落とも相俟って、従来の民族運動史観に留保と懐疑が付き纏うようになったことである。近現代史研究を取り巻くこうした大きな潮流の中で、現在では、新たに、社会経済的な中下層に焦点を当てる研究、多数派であるヒンドゥー教徒以外のマイノリティ（ムスリムなど）に視座を確保する研究、従来の狭義の政治史を越えて文化や経済などを包摂したかたちでの社会史の追求などに、研究のエネルギーが向けられるようになってきている。そして、実際、ネルー記念図書館の従来の蔵書ラインナップや力点を、時代遅れのものと捉えて、改革を促すような意見が、図書館とは直接的帰属関係のない「外野」の重鎮研究者などからも発せられるようになり、正に現在、本格的なイノベーションが始まろうとしている。私も含めて、インド内外の研究者が、大いなる期待の念をもってその行方を注視する所以である。

(おおいし たかし)

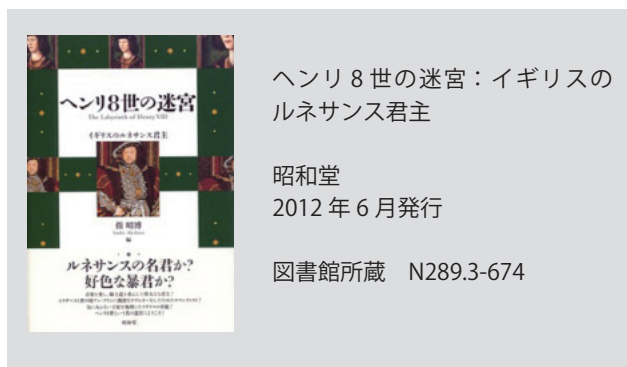


多くのインド人団体見学者が訪れる博物館
(裏手に図書館を併設)

著書紹介

イギリス史研究の魅力に導く二つの入り口

総合文化教授 指 昭博



イングランドのヘンリ8世は、大変有名な王様ですが、その評価となると、毀誉褒貶も激しく、その実像もとらえにくい、研究者泣かせの存在です。そのため、これまでヘンリを正面から取り上げた日本語のまとまった本がありませんでした。『ヘンリ8世の迷宮』(昭和堂)は、そんなヘンリを、歴史学の最新の成果を取り込んで、様々な側面から描くとともに、彼が生きた時代状況と併せて考察して、宗教改革に揺れた16世紀前半のイングランド史の概説を提示することも意図しています。欲張りな企画なので、この時代を専門にする研究者の協力を得ました。その結果、読みやすく、かつ奥の深い本になったと思います。ヘンリがアン・ブリンに宛てた恋文の翻訳も、なかなか魅力的です。

同時期に刊行した『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』(ミネルヴァ書房)は、文字通り、大学などではじめて「イギリス史」を学ぶ、むしろ歴史を専門にしない人のためのテキストです。文化史の通史としても、前例の少ないものだと思います。こうした通史部分ではできるだけコンパクトな叙述を心がけたのに対して、随所に挿入した「歴史の扉」では、教育やファッション、魔女など、特定のテーマを深く扱うことを目指して、その分野の専門家に執筆をお願いしています。

たまたまですが、両方とも京都の出版社です。出版といえば東京中心のイメージが強いですが、関西の出版社もがんばっています。

(さし あきひろ)

シリーズわたしのしごと 学術情報リポジトリ編

外大の研究成果を世界に公開

こたえるひと：谷本 千栄

-- 図書館のホームページに、学術情報リポジトリを試験公開しましたというお知らせがあったのですが、学術情報リポジトリって何ですか？

外大の先生方の研究成果をインターネットで公開するためのシステムのことで、「リポジトリ」「機関リポジ

トリ」と呼ぶこともあります。今年8月に試験公開しました。外大で発行している紀要や、学内で開催された国際セミナーの発表論文などを公開しています。

リポジトリシステムは機関ごとに構築されることが多く、国内だけでなく海外でも多くのリポジトリが運用さ

れています。インターネットから利用できる学術情報が
どんどん増えているんですよ。

--「**紀要**」という言葉もいま初めて聞いたのですが、ど
ういうものですか。

大学や研究機関が発行する雑誌のことを「紀要」とい
います。所属している先生方が書かれた論文が掲載され
ています。外大でもいくつか紀要を発行していて、関係
機関に送付しています。

神戸市外国語大学で発行している主な紀要

- ・ 外大論叢
- ・ 外国学研究
- ・ 研究論叢
- ・ 研究年報

紀要をはじめ、学術雑誌の多くは大学や研究機関に所
属する一部の人しか利用することができませんでした
が、リポジトリで公開することで、インターネットの環
境さえあれば誰でも無料で利用できるようになります。
論文を執筆された先生方にとっては、より多くの人に研
究内容を知ってもらえる機会が増えることにつながるの
で、リポジトリへの研究成果の登録をさらに進めたいと
思っています。

-- **先生のためのシステムなんですね。学生にはあまり関
係がなさそうですが。**

いえいえ、学生のみなさんにも大いに関係ありませ
んか？
みなさんはレポートなどに必要な文献を探すのに、
サイニイ
CiNii Articles というデータベースを使ったことはありま
せんか？

-- **ときどき利用します。探している論文の本文が見つ
かることもあるので便利です。**

その本文リンクの一部は「リポジトリ」のデータな
んですよ。国内のリポジトリに登録されたデータは、
ジャイロ
JAIRO というデータベースに集約されます。JAIRO は
CiNii とも連携しているので、リポジトリのデータが
CiNii からも利用できるようになります。

例えば、他大学の紀要に掲載された論文を読みたい場
合、紀要は全て書庫に保管しているので、カウンターに
出納を申し込まなければならないのですが、リポジトリ
で公開されていれば、CiNii で検索してそのままパソコ
ンの画面から本文を読むことができます。

-- **じゃあリポジトリで公開される論文がどんどん増える
と良いですね。**

そうですね。多くの人に喜んでもらえることがうれし
いです。現在登録されているのは論文の PDF ファイル
が中心ですが、今後は音声や映像など様々なメディアの
研究成果も公開できればと思っています。

(たにもと ちえ 図書館職員)



神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ トップ画面

<https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/>

2012年度 初年次教育

「図書館の、かしていい使い方。」

レポート作成のための図書館活用術」実施について

橋本 真里

今年度から本学でも初年次教育がスタートしました。初年次教育とは、導入教育とも呼ばれるもので、新入生がスムーズに（高校までとは異なる）「大学での学習の仕方」になじめるよう、大学が支援するものです。具体的には、レポートの書き方や文献の収集方法など、学習の基本的作業についての指導が主な内容になります。

この初年次教育の一環として、図書館では「図書館の、かしていい使い方。レポート作成のための図書館活用術」として、おおむね下記のような内容で講義を行いました。

・図書の上手な探し方

図書館員はどのように探すのか？具体的な例を挙げて紹介しました

・インターネットからの予約

貸出中の図書の予約や、返却期限延長の便利な方法を説明しました

・図書館にないときの入手方法

ほかの図書館からの取り寄せや購入希望制度について説明しました

・レポートに使えるデータベース

百科事典、新聞記事検索、論文検索など、レポート作成に必須のデータベースを紹介しました

・検索演習

講義内容の復習のための課題に取り組んでいただきました

・図書館見学（閲覧室と書庫）

閲覧室に加え、学部生は普段入れない書庫を見学しました

講義の具体的な内容を少しご紹介します。

たとえば...

「〇〇についてのレポートを書いて

提出すること（1500字）。」

という課題が出されたかと仮定します。

このとき調査する項目としては、おおむね次のようなものが考えられます。

- ・〇〇とは？
- ・〇〇の現在の状況
- ・〇〇の今後の可能性
- ・〇〇に関するニュース

こういった情報が何から得られるかといえば、図書や雑誌、新聞などです。事典や新聞記事については、検索機能の充実したデータベースを利用することも考えられます。図書館を利用せずにきちんとしたレポートを作成することはできない、ということをお伝えするとともに、具体的には何を使ってどのように資料を探すかについて、順を追って説明しました。

また、インターネット上の情報と図書館で契約しているデータベースとの違いや、その取り扱い方についても言及しました。

このような講義を、今年度は後期の10月から11月の2か月に渡り、毎週水曜日を中心に計13コマ実施しましたが、残念ながら、受講者は少数にとどまっています。

初年次教育は、本来、すべての学生に一定水準の教育を担保すべきものです。みなさんに初年次教育の重要性や、そもそもその機会が存在すること自体を十分に伝えられていたのかという疑問が残り、反省の多い一年目となりました。学生生活に図書館を役立てていただくために、次年度以降一層努力してゆきたいと考えています。

(はしもと まり 図書館職員)

現代中国語図書約 3 万冊が、 OPAC で検索できるようになりました。

図書館で所蔵している現代中国語の図書約 3 万冊が、OPAC(蔵書検索)で検索できるようになりました。

2012 年度の目録データ遡及入力事業が今年 10 月末に終了し、今回、約 2 万冊のデータが新たに登録されました。その中には、国内では本学のみが所蔵しているものや、北京図書館(中国国家図書館)でも所蔵していないものなど、貴重な資料も数多くあります。基礎資料はもちろんのこと、こういった貴重な資料を日常的に利用できることも、外大図書館を利用される方にとっての大きなメリットだと考えていますので、外大生や卒業生の皆さんをはじめ、より多くの方々のご利用をお待ちしております。

(柿本)



国内では本学のみ所蔵の図書(一部)



北京図書館 未所蔵の図書(一部)

図書館日誌 2012 年 7 月～ 11 月

- 7.28 展示「司書のおすすめ D」第 17 回

7.25 Newsletter No.2 発行

ゼミガイダンス 5 回実施

高校見学受け入れ 5 回

8.10 子ども参観日

8.12/26 オープンキャンパス

(専攻言語の図書展示、司書による書庫見学ツアー)

8.17 学術情報リポジトリ試験公開

8.17 - 24 蔵書点検

高校見学受け入れ 2 回

9.20 日本語プログラム図書館オリエンテーション

10.1 翻訳・通訳研究データベース導入

10.1 - 11.24 展示「司書のおすすめ D」第 18 回

10.3 - 11.28 初年次教育(図書館の、かしい使い方)

10.12 - 莫言氏ノーベル文学賞受賞記念展示

10.29 Newsletter No.3 発行

ゼミガイダンス 1 回実施

高校見学受け入れ 5 回

11.1 - 30 Re コース提供

11.6 - 7 トライやるウィーク(2校3名受け入れ)

11.19 - スペイン語文献データベーストライアル実施

11.21 ビブリオバトル開催

AD ALTIORA SEMPER 神戸市外国語大学学術情報センターだより 第 37 号 ISSN 0919-2336

「AD ALTIORA SEMPER」とはラテン語で「常により高きを求めて」という意味です

編集・発行：神戸市外国語大学学術情報センター

〒651-2187 神戸市西区学園東町 9 丁目 1

TEL：078-794-8151 / FAX：078-797-2257

URL：<http://www.kobe-cufs.ac.jp/library/>

2012 年 11 月 30 日発行 発行責任者：センター長 益岡隆志